２０２６年１１月１５日

たまな地域高校生ピースボランティア 活動報告資料

～戦後 81 年 あの戦争を忘れない、次世代への継承～

1. 活動の背景と目的

戦後 81 年が過ぎ、戦争体験者の高齢化が進む中、たまな地域の戦争遺産や記憶を次世代へ継承することが急務となっています。私たちは、昨年北稜高校の生徒有志で「たまな地域高校生ピースボランティア」を結成し、地域に根ざした持続的な平和学習・啓発活動を展開しています。

2. 2025 年度（初代）の主な活動

■ 被爆体験の継承と事前学習

- **7 月 14 日：浦田藤枝さんの体験を聞く会**
  長崎で 15 歳の時に被爆し、家族 5 人を亡くされた浦田藤枝さんから、当時の凄惨な状況や生き抜いた 80 年の歩みを直接拝聴し、平和への思いを強く刻みました。
- **7 月 30 日：事前研修（こころピア展示見学）**
  玉名市立歴史博物館こころピアの企画展「戦争遺産～次世代への継承～」を見学。地域の歴史的背景への理解を深めました。



■ 地域・子どもたちへの普及活動

- **8 月 8 日：玉名ルーテル学童保育平和学習会**
  小学生約 40 名を対象に、被爆体験を基にした紙芝居の読み聞かせを実施。その後、平和へのメッセージや花の絵を添えた「平和の紙風船」を一緒につくるワークショップを行いました。







- **8 月 23 日：長崎被爆体験証言会（こころピア）**
  玉名市歴史博物館こころピアレクチャーホールで開催された証言会の運営補助を担当し、受付・案内やワークショップを手伝いしました。







■ 学校行事での成果発表と展示（北稜祭）

- **11 月 7・8 日：北稜祭（北稜高校文化祭）での取り組み**
  北稜祭で、これまでの活動報告と浦田さんの紙芝居を上演しました。
  また教室では、大浜飛行場など玉名に残る戦争遺跡の紹介パネルや、子どもたちと作った平和の紙風船、当時の服装や学用品などの実物資料を展示し、全校生徒や地域住民へ平和の大切さを広く伝えました。





3. 今年度（2 代目）の新たな取組

初代ボランティアの強い志を受け継ぎ、新たに男子３名女子３名による「２代目高校生ピースボランティア」が誕生しました。これまでの活動をもとに、さらに能動的な地域巻き込み型の活動を始動しています。

- **7 月 13 日：浦田藤枝さんと語る会（新メンバーとの顔合わせ）**
  ２代目メンバーが浦田藤枝さんと対面し、改めて被爆当時の記憶をまとめた紙芝居を上演しました。また、玉名空襲の歴史についても学び、継承への決意を新たにしました。





- **8 月 19 日：玉名市ルーテル学童保育平和学習会**
  ２回目となる学童クラブ出前講座を開催。戦時中に熊本市水前寺動物園で殺処分されたゾウを描いた絵本『ごめんねメリー』の読み聞かせと浦田さんの紙芝居を上演し、戦争の理不尽さと命の尊さを伝えました。





- **10 月 13 日：北稜高校人権教育講演会**
  今年は北稜高校人権教育講演会に、浦田さんと髙谷さんに来ていただき、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて全校生徒で考えました。男子は当時の本物の服装で、女子はまたセーラー服とモンペを模したカーゴパンツ姿で紙芝居を上演しました。
  講演の中で浦田さんは、私たちに「平和のバトン」を渡してくださいました。





4. 今後の展望

私たちの活動は始まったばかりです。「たまな地域」と名付けたように、これから荒尾玉名地域の高校にも呼びかけて、ピースボランティアの輪を広げていきたいと思います。

今後も玉名地域の歴史を掘り起こし、被爆者や戦争体験者の思いに寄り添いながら、高校生ならではの視点で「何を学び、どう伝えるか」を考え、未来へ「平和のバトン」を繋ぎ続けます。

